



# 今月の大槌びと

## 奈須 喜久さん

(49歳・ふるさと大槌会副会長)

ふるさと大槌会の副会長を務める奈須さん。窓口役として、町と、ゆかりある人達とのネットワークづくりに貢献しています。

### 震災を機に

#### 「縁の尊さ」を実感

ふるさと大槌会との関わりはいつからですか？

奈須さん(以下奈)―初めて参加したのは大学生の頃で、総会に出席する叔父に誘われたのがきっかけでした。

昨年の夏から副会長になられたということですが、事務局の仕事がされるきっかけは？



奈―最初に会に参加して以降、ふるさととの繋がりも益

正月の帰省のみだった私ですが、東日本大震災津波があり、私たち東北出身者は、誰もが混乱と悲しみに飲み込まれました。その時に「縁」があり、今はこうして会のお手伝いをさせてもらっています。

名簿が不十分な中で、総会の開催に尽力されたという思いがた。

奈―震災を機に、すでに連絡を取ることの少なくなつた親戚や同級生とも互いに連絡し合い、励まし合うようになりしました。ふるさととの縁も薄くなつていく一方だと感じていた中、震災を通じて初めて、血縁・地縁・旧知の縁など切れることのない大切な

「縁の尊さ」を感じました。ふるさと会を通じて人と人のつながりを震災以前のふるさと大槌会と違う所はありますか？

奈―震災直後、町出身者の関心や意識が高まったこともあって、連絡を取り合いながらでしたが、過去最多ともいえる会員が集まりました。現在は、会員に加えて、大槌町の誘致企業の代表の方や、大槌町役場の派遣職員のOBの方々など、色々な方が出席し、会を盛り上げてくれています。

奈須さんの言う「縁」や「つながり」が、広がりを生み出した形でしょうか。

奈―そうですね。ふるさと大槌会としての役割は、そこに尽きるんだと思います。会長もおっしゃっていますが、ふるさと会を通して、人の気持ちをつないでいければと思います。例えば大槌に工場を持つ企業の方々が、大槌会の場に顔を出してくれて、ネットワークが広がることで、また新たなビジネスが生まれるかもしれない。大槌の特産品を会場で販売しています。地元の商店や会社が新しい商品をつくったら、この場でPRができるかもしれない。そのような場として、もっとも活用してもらえればと思います。

大槌会の皆さんは、町のどのような部分に魅力を感じてくれているのでしょうか？

奈―出身が否かを問わず、大槌の熱烈的なファンの皆さんは、大槌の「人」が好きだと話しています。今回の総会にも、フラガールやバラエティショーなど、たくさん大槌から来てくれて盛り上げて下さいました。地元の人たちが精力的に活動しているのを見ると応援したくなりますし、この会を、練習の成果を発表する舞台の一つととらえてもらって、またさらに頑張ってもらえるようになれば、素晴らしいと思います。

これからの大槌会についてどうお考えですか？

奈―繰り返しになりますが、人のつながりを大切に、その手助けができるように活動していきたいと思っています。また、今はあまり若い会員さんが出席していません。みんな仕事が忙しくて、なかなか足を運びにくいかもしれませんが、みな大槌出身の家族たちなので、ぜひ来てもらってつながりを持ってれば、きっと東京での生活の助けにもなっています。

**大槌びと クロストーク**  
Cross talk

今月のクロストークはお休みします。  
1月号から再開します。